

平成25年2月国際放送番組審議会議事概要

平成25年2月のNHK国際放送番組審議会（第589回）は8日(金) NHK放送センターで7人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず最近のNHKの動きについて、続いて最近の国際放送の動きについて説明があり、意見交換を行った。ひき続き、視聴番組「NEWSLINE」および「NEWSLINE・リポート選」について説明があり、意見交換を行った。最後に国際放送番組の放送番組モニター報告の資料を配布し、会議を終了した。

(出席委員)

委員長	北村 俊昭	(国際石油開発帝石(株) 代表取締役社長)
副委員長	今井 克	((株)全国新聞ネット 顧問)
委員	内海 善雄	(前国際電気通信連合 (ITU) 事務総局長)
委員	セーラ・マリ・カミングス	((株)榊一市村酒造場 代表取締役 / (株)文化事業部 代表取締役)
委員	中山 俊宏	(青山学院大学国際政治経済学部 教授)
委員	沼田 貞昭	(鹿島建設(株) 顧問、一般社団法人 日本英語交流連盟会長)
委員	萩原 敏孝	(株)小松製作所 特別顧問)

(主な発言)

<最近のNHKおよび国際放送の動きについて>

- 紹介のあった「国際放送番組編成計画」について、「ラジオ国際放送の使用言語別の放送時間」を見るとスペイン語やフランス語といった使用人口の多い言語の時間が短いのではないかと。例えばペルシャ語よりもフランス語やスペイン語の放送時間が短いのは理解に苦しむ。もし大きな理由がなければ、使用人口の多い言語の放送時間を拡大したほうがよい。

(NHK側) 歴史的な経緯の蓄積の結果としてこのような編成計画になっているほか、一定の予算の中で最適な状況を作り出すためのコストも考慮されている。非常に重要な指摘なので、さまざまな要素を検討しながら、見直していきたい。なお、ネット上ではアクセスすれば常時聴けるサービスを提供している。また、スマートフォンのアプリを利用すれば、放送そのものがライブで聴けるほか、放送済みのコンテンツについても聴くことができる。「ラジオ日本」については、リスナーがアクセスできるコンテンツの入口をなるべく多く用意し、より多くの人々に、より聞きやすいサービスに充実させていきたい。

(NHK側) その土地ごとにリスナーに放送を届けられる最適の手段を選んで、より

多くの人に聴いていただけるよう工夫していく。

- 中波およびFM放送はどのように実施しているのか。また、衛星ラジオ放送はどんな人々が受信しているのか。

(NHK側) 中波、FMについては現地の放送局に衛星回線等を使用して番組音声を送り、一部の時間を借り上げてその地域の言語の番組を流してもらっている。アフリカや、インドネシアをはじめとするアジア地域で特にそのような方法を活用している。衛星ラジオについては主に中東・北アフリカ地域で活用している。テレビのチャンネルの一つとして音声放送を行っているが、機能的には静止画も載せられるので、例えば日本の料理を紹介するような画像を音声と共に放送し、リスナーの利便性を高めている。

- 国際放送の25年度の予算は、4.8%増額するとの報告があった。国際放送のどんなところを強化するために増額が認められたのか。

(NHK側) 国際放送の予算は、「3か年経営計画」に基づき年々増やしている。受信料の値下げで、25年度の全体の予算は収入・支出ともに減るが、国際放送の予算は増やしている。英語ニュースを充実・強化するなどの主要課題には十分対応可能と考えている。

- 25年度予算について、ニュースの24時間強化以外の部分で特に重点的な支出項目はあるか。

(NHK側) NHKワールドTVを広く普及させていく受信環境整備の作業には、各地域の衛星を借り上げたり、ケーブル会社と契約したりというように具体的なコストがかかる。アメリカなど、さらにNHKワールドTVを普及させたい地域に重点的に経費を投じ、PRしていきたい。また、スマートテレビ対応など、インターネット環境への取り組みにもいっそう力を入れていく。

- 国内に向けても英語24時間放送を実施するべきではないか。日本が本当に国際競争に勝つためには英語の語学力が必須である。

<ラジオ日本とNHKワールドTVで放送した双方向番組「We love Japanese Songs! 2013」について>

- 大変おもしろく視聴した。最近の日本からは、若者から年輩者まですべてにアピールする商品はなかなか出て来ない。そんな中でアニメやゲームの歌は世界に浸透し、子どもから大人まで本気で歌っている。そのことに驚いた。歌には楽譜があるので世

界中で楽しめるが、そのような広がりを持つ商品がほかにあるだろうか。あったとしてその商品で番組が作れるだろうかと思うと、とても難しいと感じた。

- いわゆるオタクカルチャー的なところに自らを縛りつけているように感じた。もっと普遍的に通用するような歌を取り上げたほうが、より可能性が広がるのではないか。
- 今、世界で人気があるのがアニメやゲームの歌であれば、アニメの主題歌などが多くなってしまうのもしかたがない。
- 日本語の歌を外国の人々がこのように歌い、投稿をしている。そのことにびっくりした。日本の文化や歌が、こんなにも楽しまれているということが大事で、非常によかった。映像で見るとそのことのすごさを実感した。
- ある日本企業のインドネシア支社で現地スタッフが会議の後で日本語の歌をうたっている事例がある。そういう意味では、歌は、J-POPなどにだけ焦点を当てて得られる以上の広がりを持つものと感じる。この番組のような双方向の試みは続けていただきたい。
- 音楽と食べ物は、世界に向けての文化発信では最も心に響くものである。食べ物でも双方向番組ができればよいのではないか。
- 200本ほど動画の投稿があったとのことだが、もう少し多くてもいいように感じた。以前からこのような取り組みがあったのか。今後も継続の予定か。

(NHK側) 平成24年に同じコンセプトでラジオ番組を制作した。今後も続けていきたい。

<視聴番組「NEWSLINE」(NHKワールドTV 2月5日(火)午前2:00~2:28)について>

- 国際放送全体の基本にあるべきは、日本発のニュースであり、日本のニュース、アジアを代表するメディアとしての信頼されるNHKのニュースであると改めて感じた。24時間、平日どの時間帯でも30分間「NEWSLINE」を放送する体制になったことは非常に喜ばしい。
- 沖縄県・尖閣諸島の問題について「NEWSLINE」ではどの程度扱っているのか。ニュース項目については、それぞれの時間帯にどのような順序で取り上げるか、プライオリティーをどうつけるかが非常に重要である。尖閣問題は毎時間取り上げるくらいの必要性があるのではないか。“コーヒー大国”の項目では、味のグローバルスタンダード化はある意味重大なことであると感じた。

(NHK側) 今回の視聴番組の中でも、4つ目の項目に中国の海洋監視船が14時間後に尖閣海域を離れたというニュースを取り上げている。東アジアのニュースについては特に分厚く伝えている。

(NHK側) 尖閣諸島について触れていない回は一度も無いと言えるほど、必ず毎回取り上げている。1月は特に領空侵犯や領海侵犯がひんばんに起きており、必ず伝えている。

- 視聴番組のニュース項目には「中国と韓国が北朝鮮に核実験の自制を求める」というものがあるが、これを見ると日本はどのような立場なのかと感じる。同日の一般紙を確認してみると、北朝鮮が核実験を行うならば、日本は独自制裁を行うという記事が掲載されている。つまり日本政府の対処方針が明らかになったということが伝えられている。視聴番組「NEWSLINE」は非常に中立なスタンスで伝えていると言えるかもしれないが、やはり日本の国際放送であるのでまずは日本のことを伝えてから、中国や韓国のことを伝えるべきだと思った。また、「中国の海洋監視船が14時間で尖閣海域を離れる」というニュースでは、アンカーが“Japanese waters”に“intrusion”してきたと言っていた。日本の領海というニュアンスはあるが、明快ではない。特にアンカーが「中国が自国の領土と主張している尖閣諸島」と説明したので、まるで日本が北方領土を実効支配しているロシアと同じ位置づけで尖閣諸島を支配しているという印象を視聴者に与える。

その他のニュース項目についても、経済ニュースについて「日立と三菱の決算」が「NEWSLINE」では輸出低迷で厳しい業績と伝えられたのに対し、他の一般紙では例えばトップ記事で「トヨタの増益」など景気のよい話題を取り上げている。日本の国際放送であるならば日本の元気な姿を世界に印象付けるべきではないか。

ニュースの説明のしかた自体は非常に分かりやすい英語で、番組としては信頼できると思った。

- 日本時間の午前2時台にこのようなニュースが世界に向けて発信されていることを実感できたことはよかった。領土についてどう表現するかは難しい。historical reasonとlegal reasonを両方言わなければならなくなる。北方領土についてはソ連軍が占領を始めた1945年8月あたりまでさかのぼって説明しなければならないなど、問題があるので工夫を要する。ただ、言葉としては“Japanese waters”より“terrestrial waters”のほうがよいように感じた。

また、日本の経済政策を説明する際、“大胆な金融措置”を“金融緩和”と表現し、“2%のインフレ目標を達成しようとするのは微妙な綱渡りである”と伝えていた。客観的にはそのとおりだが、視聴者にとって元気の出る内容ではなかったのではないかと感じた。

サハリンの寒中水泳リポーターの勇気はよかった。

(NHK側) 英語表現については日々検証し、より正確に伝わるように最善を尽くしていく。新聞は朝刊、夕刊という、1日2回の取りまとめの中でバランス

を取っているが、1日24時間、毎時30分のニュースを放送し続け、新しいニュースが入ってきたらそのつど差替えてニュースを更新していく中では、ある放送回のみを取り上げると新しいニュースが強調されてバランスが取れていないような印象を与えることがあるかもしれない。それが24時間ニュースの最も難しい点である。今回視聴番組に取り上げた回より前の時間帯では、異なるニュースオーダー（伝えるニュースの項目と順番、時間配分）で放送している。今後24時間の中でバランスをどう取っていくか、さらに考えていく。

(NHK側) 「トヨタの増益」については国内向けにも海外向けにも、トップニュースでしっかり伝えている。

(NHK側) 日本の元気な姿を、海外にできるだけ出していきたいという思いで取り組んでいる。

視聴番組の放送時間帯は、ヨーロッパの遅い時間とアメリカの日中を対象としている。

- ニュース項目の中で日本のニュースをトップに置かないのは、日本の謙虚さの表れなのだろうか。どんな時間帯でも、1項目くらいは世界に向けてアピールしたい日本の話題を取り上げればどうか。「コーヒー大国」や「寒中水泳」の話題などは、NHKの硬いイメージを和らげようとしているのかもしれないが、それらが日本から見た重要なニュースなのだろうかという気もした。

視聴番組のアンカーは非常に英語が自然だった。アメリカ人か。

(NHK側) 視聴番組の前の時間帯の「NEWSLINE」では、日本の主張をしっかりと伝えていた。その後多少異なるスタンスの原稿が入り、この時間帯では中国・韓国の情報を入れることにした。どんな時間帯でも日本の対応については、短くてもよいので必ず入れるほうがよいのかもしれないと感じた。なお、視聴番組のアンカーは日系アメリカ人である。

- やはりニュースが柱であると感じた。北朝鮮の核実験関連のニュースのような、明らかに日本に大きな関連性があるものについては、「日本はこのことをどう見ているのか」という専門家の見方を添えるなどして、日本がどう感じ、どう受け止めているかをはっきり伝えるべきである。また、全体の印象が地味だと感じた。平日の24時間・毎時30分のニュースを放送する体制ができあがった今、次の一步は「NHKワールドTVと言えはこの番組だ」と言えるようなものを作ることだと思う。そのためには、“顔”になるような人物が必要であるが、それができればかなり本格的になると感じた。

- ニュース番組や新聞の基本的な設計を見ると、どの位置にどんなニュースを置くかでそのニュースをどう捉えているかがある程度分かる。ニュース番組では、最初に伝

えられるものが価値のあるニュースなのだろうと思って見ている。他の国際放送を見ると、24時間放送していて、新しいニュースが入ってくれば必ず新しいものから先に伝えているかというところではなく、トップニュースはほぼ1日程度同じものを取り上げている。順番が後のものが多少差し替わる程度だと思う。毎時ニュース項目を変えていくことを意識しているような説明があったが、24時間ずっと同じチャンネルのニュース番組を見ている人はいない。「NEWSLINE」についても、1日1回もしくは、週に1度ほどしか見ていないのではないか。そうであれば、そのニュースについて“日本がどう見ているか”という点を強調するほうがよいのではないかと思う。「NEWSLINE」がどのような基本設計で作られているのか、説明を聞きたい。今回の視聴番組に関しては、全体に項目が盛りだくさんで消化困難な印象があった。また、トップニュースの選択があまりよく分からなかった。なお、女性記者が多く活躍している様子を見て、非常によいと思った。

楽しいニュースが取り上げられていることについては、遊びの部分でありおもしろいと感じた。

(NHK側) 30分のニュースであれば、取り上げる項目は13程度が標準だと考えている。ニュースを更新するたびに、何項目かを入れ替えていくわけだが、ニュースの内容をよく精査して、大事なことは少々古くなっても短くして残すなど、世界の視聴者が時間ごとに移り変わることも意識しながら、ニュースオーダーを研究していきたい。

(NHK側) NHKワールドTVの“顔”を作る必要については、われわれも実感している。また、時間帯ごとに最も視聴に適した地域はどこかを考慮し、アメリカ向け、欧州向け、アジア向けを意識して時間帯ごとにニュース項目を検討することも必要かと思う。今後どうかたちで、どのような時間に、どんな内容を伝えていくか、さらに考えていく。

<視聴番組「NEWSLINE・リポート選」(NHKワールドTV 12月13日(木)午後3:00ほか)について>

- どれも大変おもしろく見たが、とりわけ中国の反日デモのリポートで、現地従業員がお客に来てもらうよう、一生懸命頑張っているという内容は大変感動的で、産業界の人間からすると非常に心強いニュースだと感じた。心臓模型を作る技術については大変優れたものだった。知人のハーバード大学教授に、ワシントンやボストンにいるメディアの人々が日本をどう見ているのか聞く機会があったが、発信力が弱いと感じているとのことだった。また、NHKの保有する先端技術や歴史の映像や解説などはソフトパワーの蓄積そのものであり、もっと対外的にアピールするべきだという意見も聞いた。
- 今回のラインナップの中には、築地に外国人観光客を呼び込むとか、反日デモ、阪神・淡路大震災の教訓を生かす企業の取り組みなど、過去にどこかで見たような印象

を持つリポートがあったが、バングラデシュで農村のネット環境を整備する女性NPOの話題など、全く知らなかったことを伝えるリポートには意味があったと思う。どこも報道していないテーマを発掘して伝えるということに注力してほしい。

○ 取り上げるテーマは、ユニーク性のあるものがよいと思う。テーマは良いが説明が分かりにくいものもあった。例えばバングラデシュのNPOについては、電気がないようなところに自転車で行って、どのようにインターネット環境を作り出しているのか背景がもう少し説明されていればよかった。反日デモ関連のリポートでは、現地従業員の取り組みが強調され、実際の反日デモのひどさがあまり紹介されていなかった。重層的な中国を描くというテーマはよいが、もう少し取り上げ方のバランスを取ったほうがよいように感じた。

○ アフリカの地熱発電を取り上げたリポートのようなものを実際にアフリカに駐在している日本人が見たら、励まされる内容だろうと思った。また、バングラデシュの女性NPOも関心と呼ぶ内容だと思った。

(NHK側) 企画については、日本企業が世界中でいろいろなかたちで行っている貢献、魅力的な日本の姿を伝えることによる外国人観光客誘致、NHKならではのアジア取材のアピールなどを心がけ、今後ともバラエティー豊かな内容でお送りしていきたい。